



※イラストは、イメージ図です。形状やデザインが異なる場合があります。

組立て動画はコチラ 要確認!

・ Check the assembly Movie! ・ 组装视频!

※仕様が変わる場合がありますので、必ず確認をお願いします。

●スマホで読取り!



●PCの方は以下をアクセス!

<https://aijyu-support.tank.jp/eb100/>

お願い

- 組立て方法は、動画がありますので、必ずご確認ください(QRコードで読み込み)。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- 商品到着後、取扱説明書のP.28ページ「購入情報MEMO」に購入情報・車体番号などご記入ください。
不具合や盗難にあった場合など、万が一に備えての大切な情報になります。
※車体番号は販売店・製造メーカーで管理・保管していませんので必ずお客様にて控えをとってください。
- ご使用前に、取扱説明書に従い正しく組立てをおこなってください。ご不明点は販売店にお問合せください。
- お届け時は、タイヤとチューブの保護・傷み防止のため、空気が少なくなっている場合があります。必ず適性な空気を入れてからお乗りください。
- お子さまがご使用の場合、大人の方が取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗り方をご指導ください。
- この自転車は、近隣走行を目的とした日常生活用として設計されています。競技用・業務用としてご使用にならないでください。
- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯されたTSマークの加入をお勧めします。自転車安全整備店(TSマーク取扱店)で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認したうえで貼ることが出来ます。(有料)
- 防犯登録の申請手続きを行ってください。(法令で義務付けられています。)(有料)
- この自転車に幼児用座席を取付けることはできません。

配送ダンボール保存のお願い

お届け時のダンボール箱は、初期不良対応などの返送時に備えて、最低一週間は捨てないでください。

タンボールを捨ててしまった場合は、初期不良の場合でも配送用ダンボールは有料となります。(ダンボール代金3,000円)

※現在宅配業者は、梱包されていない自転車は配送してもらえませんので、お守りいただけますようお願いいたします。

目次

乗るまえに

- 安全上のご注意 2
- 各部のなまえ 8
- 乗る前の準備 (組立手順) 10
- 乗る前の点検 13
- 乗る前の調整 15
- 正しい取扱い方法 19

必要なとき

- お手入れ／注油について 21
- 定期点検 23
- 防犯登録について 24
- こんな時は 25
- LEDライトについて 26
(サービス付属品のため仕様が異なる場合があります)
- ワイヤーロック錠について 27
(サービス付属品のため仕様が異なる場合があります)
- 購入情報MEMO 28

スペック表

全長	約 140cm
全幅	約 57cm
ハンドル高さ	約 79cm
サドル高さ	約 78cm ～ 87cm
タイヤサイズ	20×1.35inch
タイヤバルブ	米式バルブ
ブレーキ (前)	Vブレーキ
ブレーキ (後)	Vブレーキ

フロントギア歯数	48 丁
クランク長	16.5cm
ペダル	折りたたみ式
変速方法	サムシフト
変速機方式	シマノ 6 段変速
スタンド	片脚スタンド
乗車適応身長	140cm 以上
適正体重	100kg 迄

安全上のご注意（1）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



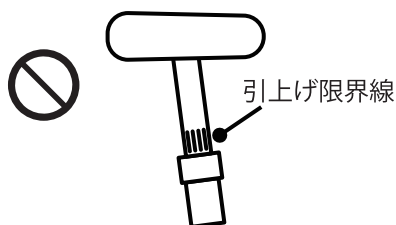
気をつけていただく内容です。

けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために次のことを守りましょう！



警告

● サドル・ハンドルの高さは、引き上げ限界線が見える状態では乗らない。



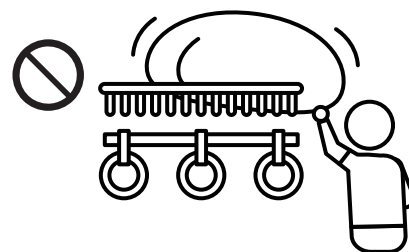
シートポストが折れたり、段差に引っ掛けて転倒による怪我のおそれがあります。

● 改造や分解、また指定以外の注油はしない。



部品の破損や、ブレーキが効かなくなって、転倒や事故による怪我の恐れがあります。

● 電車などの棚に載せない。



落下して、怪我の恐れがあります。
※他の人に迷惑にならないように足元や車内の隅に置いて下さい。

公共の交通機関（列車、バス、地下鉄等）を利用される場合のお願い

- ① 交通機関の係員の指示に従ってください。
- ② 他のお客様のじゃまにならないように気をつけてください。
- ③ できるだけ安定した床面においてください。
落下すると事故の原因になるので、網棚には載せないでください。

安全上のご注意（２）



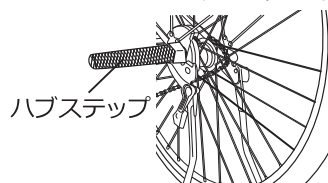
警告

■安全装置は取り外さない



外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれがあります。

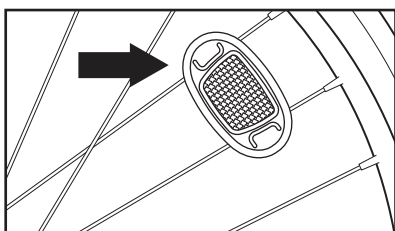
■ハブステップなどの突出物を装着しない



歩行者などに、危害をおよぼすおそれがあります。

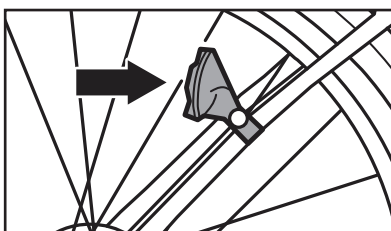
■安全装置

スポークリフレクタ



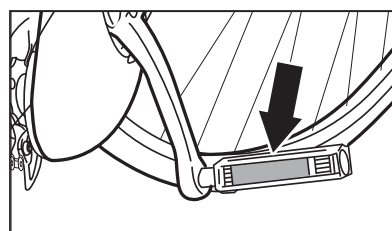
横からの光を反射します

リヤリフレクタ（後部反射器）



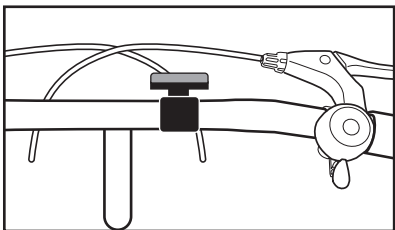
後からの光を反射します

ペダルリフレクタ



前後からの光を反射します

フロントリフレクタ



前からの光を反射します

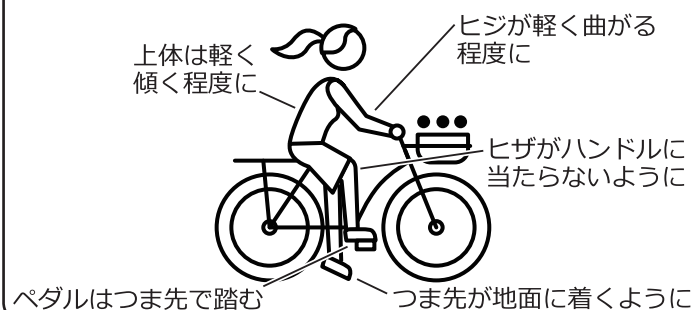
※リフレクタが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(リヤリフレクタが破損したままでの夜間乗車は法令違反になります。)

安全上のご注意（3）

乗る前に

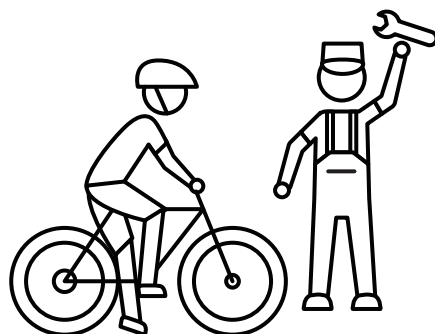
まず体に合わせてください

- 図を参考に調整してください。
- 操作して確認してください。
 - ①円滑なペダリングができる。
 - ②ブレーキや変速機（ある場合）が確実に操作できる。
 - ③ハンドル操作が容易にできる。



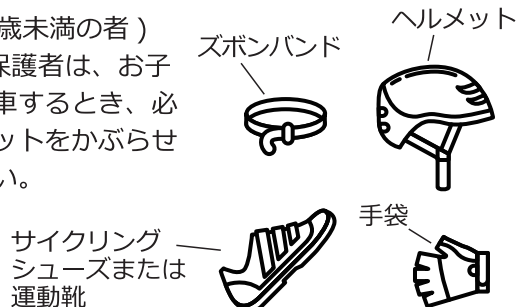
必ず点検をしてください

- 必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
- わからないときは販売店に相談してください。
- 未組立ておよび未調整の自転車は乗らないでください。



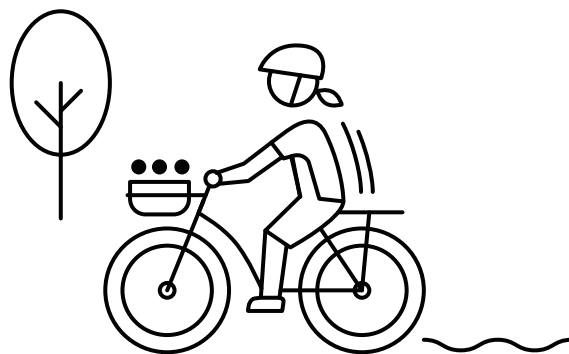
安全な服装で乗ってください (車輪に巻き込まれやすい服装はしない)

- ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っかかり等を防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
- 児童（13歳未満の者）
 - ・児童の保護者は、お子さまが乗車するとき、必ずヘルメットをかぶらせてください。



乗る練習は必ず行ってください

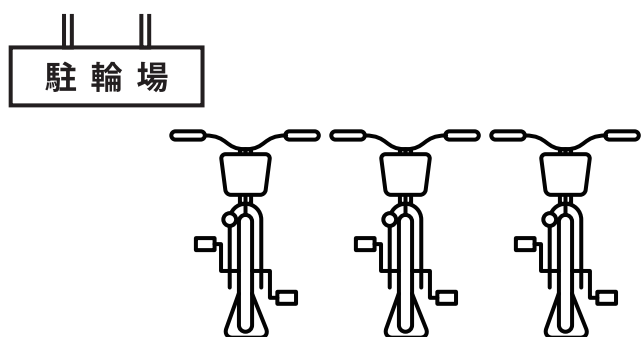
- 練習を公園など安全な場所で、おこなってください。
- よく練習してから、一般道路でお乗りください。



乗ったあと

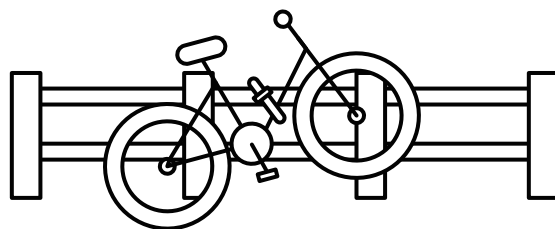
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、他の人に迷惑のかからないよう、決められた場所にとめましょう。
- 盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。



自転車放置禁止

- 自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因になります。絶対にやめましょう。



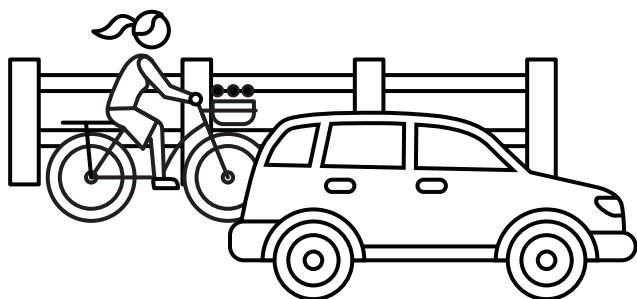
安全上のご注意（４）

交通ルールを守る

※違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

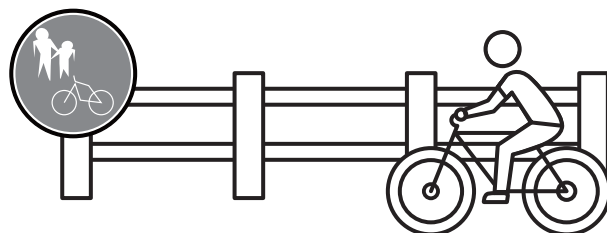
自動車は、車道通行が原則です

- 歩道と車道の区別のあるところは自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。



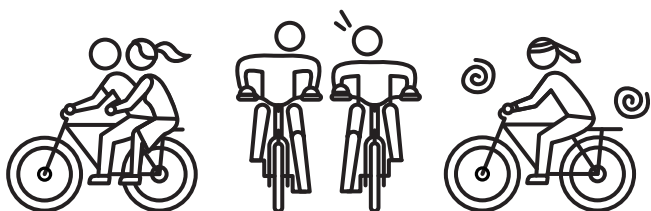
次のような場合は、歩道通行ができます（その時にも歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行）

- 自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
- 車道や交通の状況からみて、やむを得ない場合。



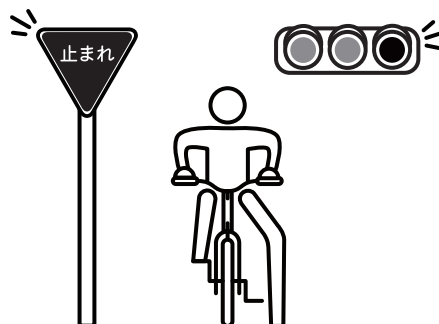
二人乗り、並進、飲酒運転は禁止

- 6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合等を除き、二人乗りは禁止です。
- 「並進可」標識のある場合以外は、並進は禁止です。
- 飲酒運転は禁止です。



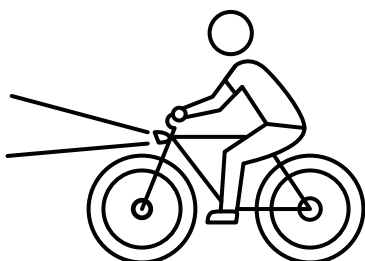
交差点では一時停止と安全確認を

- 一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認を。
- 信号がある場合は、信号を必ず守りましょう。



夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行しましょう

- 夜の無灯火運転は交通違反です。
- 暗い所では、ライトを点けて通行しましょう。



次のような運転はしない

- ヘッドフォンを使用しながらの運転。
- 傘さし運転。
- 携帯電話を操作しながらの運転。



安全上のご注意（５）

必ずお守りください

交通ルールを守る

道路を走るときに必要なルールです。まず、これだけ覚えておきましょう。

- 見通しの悪い交差点や、狭い道から広い道にでるとき
一時停止して左右の安全を確認してください。
- 子供の飛び出しに注意
公園や学校のあるところでは子供の飛び出しに充分に注意してください。
- 視界の悪いとき
必ずLEDライトをつけてください。
LEDライトは早めにつけましょう。
- 停止するとき
右腕を斜め下に出して停止してください。
- 左折するとき
右腕のひじを直角に上げ、速度を落として曲がってください。
- 信号機のない交差点で右折するとき
右腕を水平にし、手のひらを下にして、向こう側まで進んでから右折してください。
- 交差点では左に曲がる車に注意
左に曲がる車のすぐ横は、巻き込まれる恐れがありますので充分に注意してください。
- 車道を走行するとき
車道の左側を必ず一列で走行してください。
- 歩道を通行できるところでは
歩行者優先で、車道寄りを徐行してください。
- 車のすぐ横を走るとき
急にドアが開いたり、車の陰から人が出てきたりすることがありますので、充分に注意してください。
- 車のすぐ後ろを走るとき
前方が見えにくかったり、車が急に止まったり、曲がったりすることがありますので、充分に注意してください。
安全な距離を保ってください。
- 踏切では
一時停止して左右の安全を確認してください。

道路標識を守りましょう

また地域の条例や法律にしたがい、安全な運転を心がけるようにしましょう。



一時停止



自転車通行止め



通行止め



横断歩道



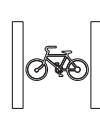
自転車横断帯



自転車および歩行者専用



自転車専用



自転車横断帯（路面表示）

自転車運転者講習制度について

講習の対象となる危険行為とは・・・

信号無視・一時不停止・酒酔い運転・ブレーキ不良運転など・・・

- 自転車運転中危険なルール違反をくり返すと ⇒ 自転車運転者講習を受けることになります。
 - 信号無視や一時停止など14項目の運転行為をして3年以内に2回以上摘発された自転車運転者は、公安委員会の命令を受けてから3ヶ月以内の指定された期間内に講習を受けなければ5万円以下の罰金が課せられます。
- ① 信号無視
 - ② 「歩行者道路」など自転車の運行が禁止されている場所を通行すること
 - ③ 自転車の通行が認められている歩行者道路を通行する際に歩行者に注意を払わなかったり徐行しなかったりすること
 - ④ 歩道を通行したり、車道の右側を通行すること
 - ⑤ 路側帯で歩行者の通行を妨げるような速度と方法で通行すること
 - ⑥ 遮断機が閉じていたり、閉じようとしていたり、または警報機が鳴っている時に踏切に立ち入ること
 - ⑦ 交差点で、通行する車両の安全な進行を妨げること
 - ⑧ 信号の無い交差点で左から来る車両の通行を妨害すること
 - ⑨ 環状交差点の通行を妨害したり、徐行をしないことなど
 - ⑩ 一時停止標識などを無視して交差点に進入したりすることなど
 - ⑪ 歩道の車道よりの部分などを徐行しなかったり歩行者の通行を妨害しそうなのに一時停止しないなど
 - ⑫ ブレーキがなかったりブレーキ性能が不良の自転車で走行すること
 - ⑬ 酒酔い運転
 - ⑭ ハンドルやブレーキなどを確実に操作せず、また、他人に危害を及ぼすような速度や方法で運転すること（傘さし、スマホ運転も含まれます）

安全上のご注意（６） 必ずお守りください

転倒事故を防ぐために

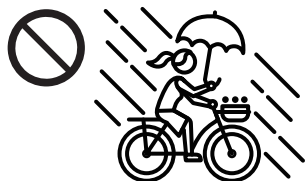
こんな時

雨・風・雪のひどいときは乗らない



バランスを崩し、転倒による怪我のおそれがあります。

合図以外は、ハンドルから手をはなさない

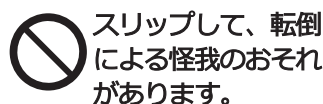


バランスをとりにくく、転倒による怪我のおそれがあります。

こんな場所

滑りやすい所では、乗らない

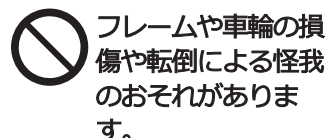
（積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど）



スリップして、転倒による怪我のおそれがあります。
降りて、押して歩いてください

凹凸の激しいところを走らない

（歩道の段差や、溝など）



フレームや車輪の損傷や転倒による怪我のおそれがあります。
降りて、押して歩いてください

こんな乗り方

巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない
（長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど）



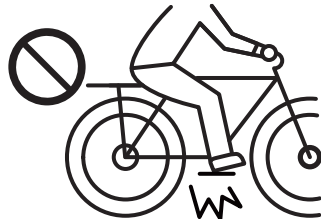
車輪やギヤに巻き込まれ、転倒による怪我のおそれがあります。

傘やステッキ、釣竿などを、車体に差し込んだり、吊り下げて乗らない



車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒による怪我のおそれがあります。

土踏まずやかかとでペダルを踏まない



車輪やギヤに巻き込まれ、転倒による怪我のおそれがあります。

こんな使い方

走行以外に使わない
（踏み台代わりなど）



転倒による怪我のおそれがあります。

滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない



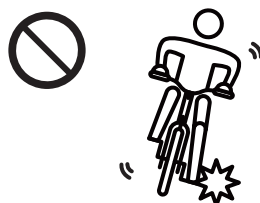
ペダルから足が外れ、転倒による怪我のおそれがあります。

手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない



荷物のひもが、車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒による怪我のおそれがあります。

カーブで曲がる側のペダルを下げない



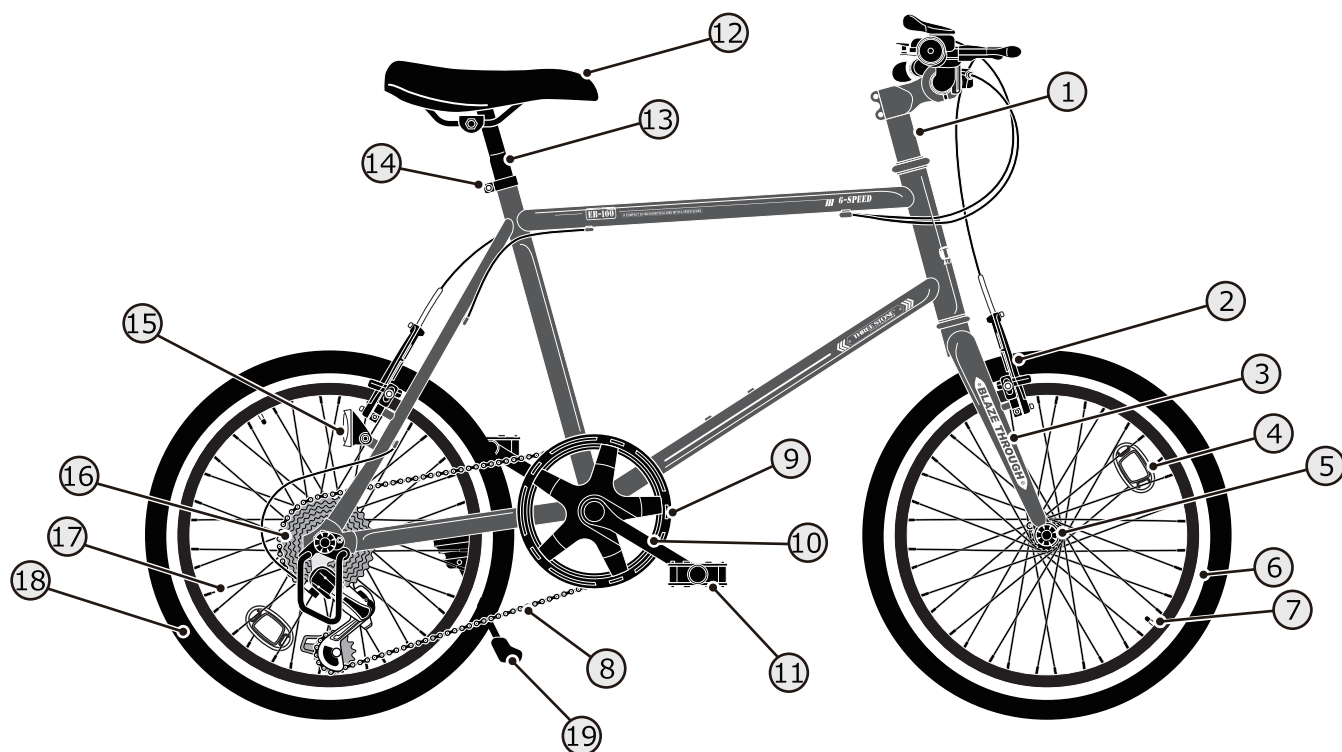
ペダルが地面と接触し、転倒による怪我のおそれがあります。

スポークの間に固形物を入れて走らない
（ボールなど）



車輪に巻き込まれて、転倒による怪我のおそれがあります。

各部のなまえ

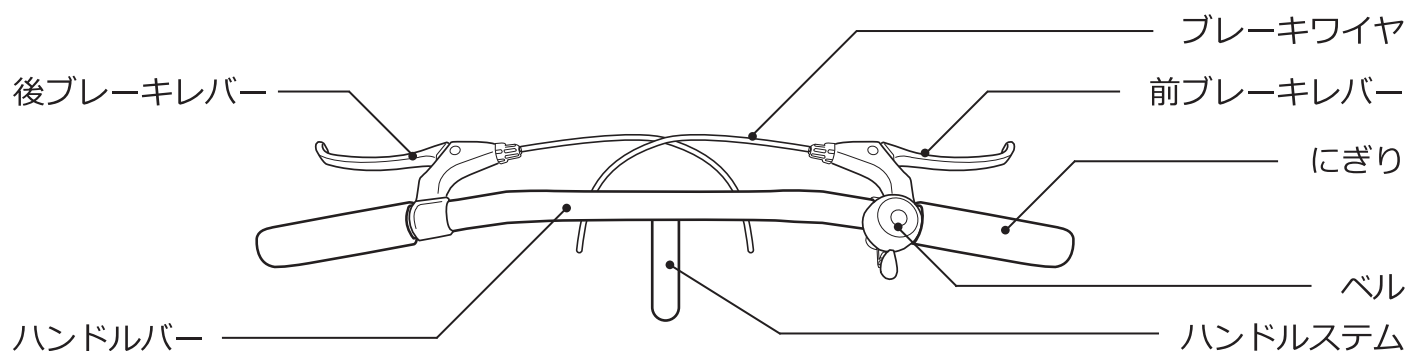


※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが異なる場合があります。

No	名 称	No	名 称
①	ハンドルポスト	⑪	ペダル
②	前ブレーキ	⑫	サドル
③	前フォーク	⑬	シートポスト
④	ホイールリフレクタ	⑭	サドル固定器具
⑤	ハブ	⑮	リアリフレクタ
⑥	リム	⑯	後ブレーキ（裏側）
⑦	タイヤバルブ	⑰	スポーク
⑧	チェーン	⑱	タイヤ
⑨	チェーンガード	⑲	1本スタンド
⑩	ギヤクランク		

各部のなまえ

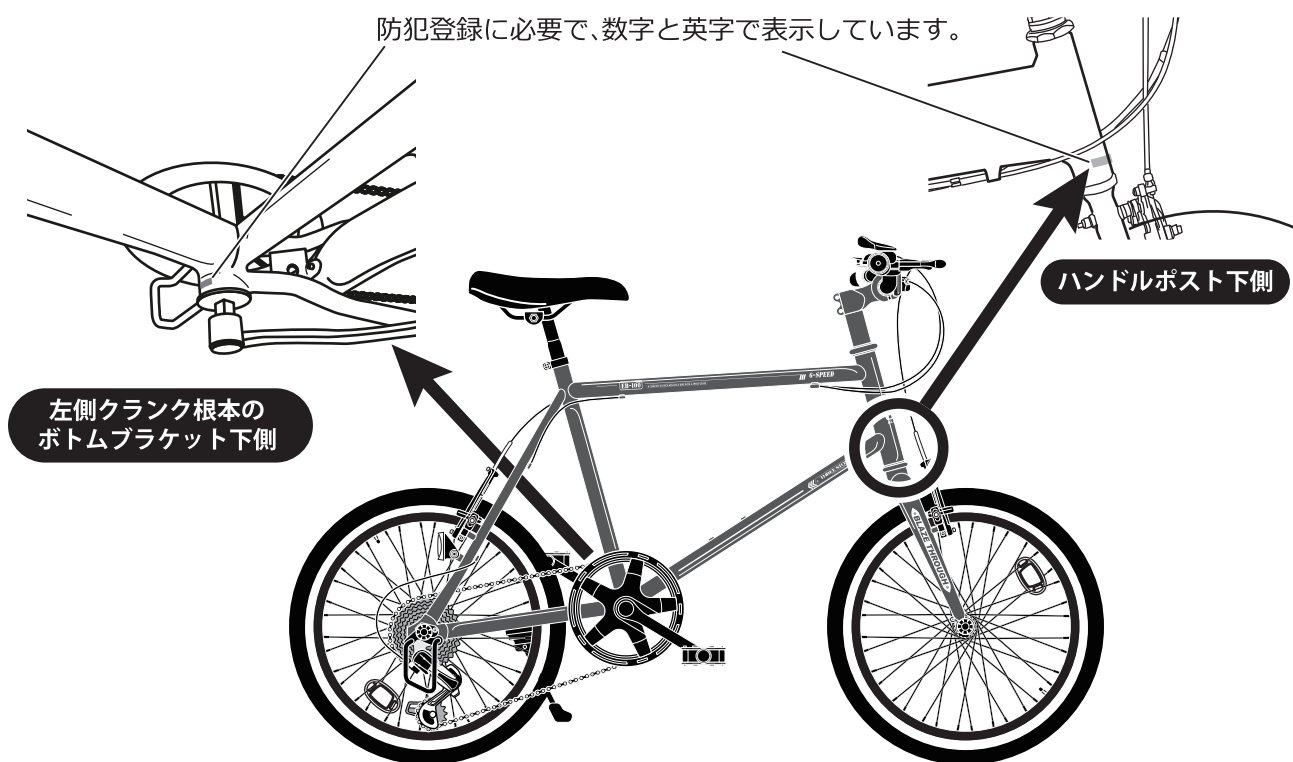
※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが異なる場合があります。



■ **車体番号位置** ハンドルポスト下に車体番号が刻印されています。

■ 車体番号 (刻印位置)

防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。



乗る前の準備（１）

組立手順

1. 車両本体（車体部）を組立てる



警告

■箱から自転車を出す際には、大人の方が二人で作業をする。

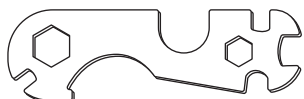
お願い

ダンボール箱は、初期不良対応や万が一修理を依頼するのに備えて、最低一週間は捨てないでください。
※ダンボールを捨ててしまった場合、初期不良の場合でも配送用のダンボールは有料になります。

付属品



ハブキャップ × 4



スパナ



六角レンチ 4-5

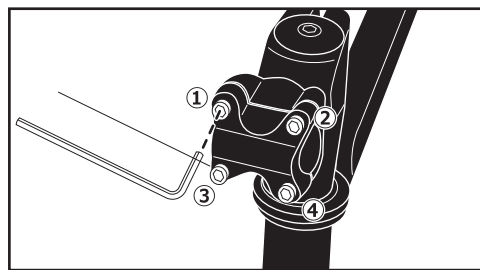


プラスドライバー

※他にサービス品として、『フロント LED ライト』『ワイヤーロック錠』が付属されています。

ハンドルの取付け

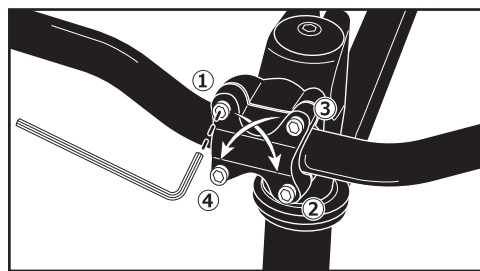
① ハンドルステムの前方にあるボルト（4本）を付属の六角レンチ（小）ですべて外してください。



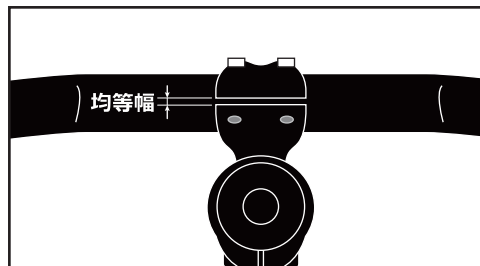
② ハンドルをハンドルステムに挟みこむようにして、再度ボルトで締めて、固定してください。

※ ボルトを締める時は、均等に締まるように対角線の順番で締めてください。

※ ブレーキの線がハンドルに巻き付いたり絡まったりしないようにしてください。巻き付いたり絡まったりしていると、ハンドルを切った際にブレーキの効が悪くなったり故障の原因となります。



③ ハンドルステムのボルトを締める際は、右図の様に上下左右の隙間が均等になるようにして、しっかりと締め込んで下さい。



⚠ 注意

隙間に偏りがあると、ハンドルがうまく固定されなかったり、緩み易くなって大変危険です。事故や怪我の原因になりますので、ご注意ください。

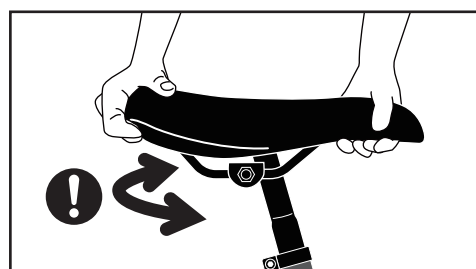
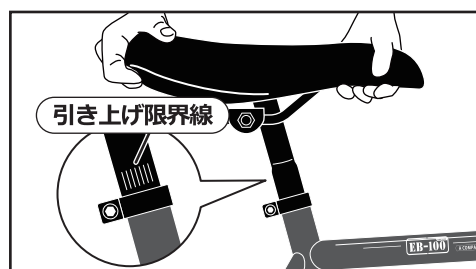
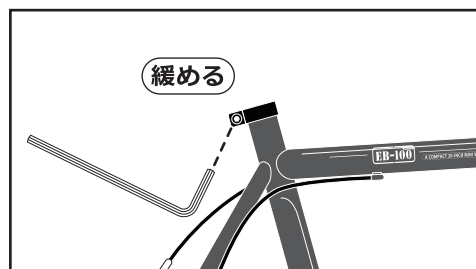
乗る前の準備（２） 組立手順

サドルの取付け

- ① サドル固定器具のボルトを付属の六角レンチで、少し緩めます。
※注意：サドル固定器具のボルトをゆるめずに高さ調整を行うとシートポストを傷つけることがあります。
- ② サドルを上下に動かして高さ調整し、サドルを持ってサドル固定器具のボルトを再度六角レンチで締めつけます。

⚠ 警告

サドルを固定する際、シートポストの『引き上げ限界線』以上に引き上げないでください。取付けが不安定になり大変危険です。



⚠ 警告

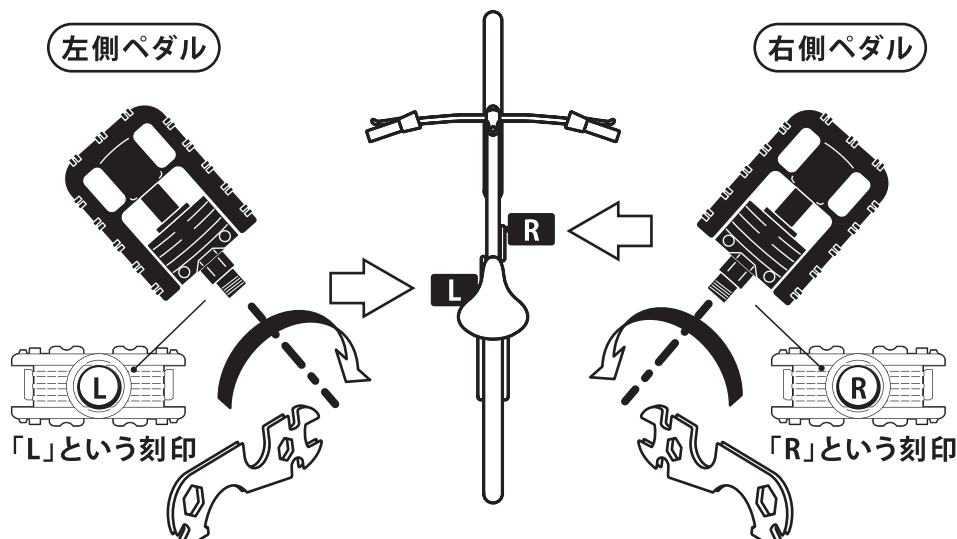
サドル固定後は、必ず手で左右に力を加え、ガタツキが無いか確認してください。

ペダルの取付け

※ペダルには、右用（R）、左用（L）がありますのでご注意ください。

- ① ペダルの左右に注意してクランクの取付け穴にペダルを合わせて、手で締められるところまで締めて下さい。左ペダルは反時計回り、右ペダルは時計回りで絞めていきます。
- ② そのあと、スパナを使用して本締めをしてください。

左足を乗せる方の左用ペダル（L）は、逆ネジ方向（時計と逆方向）に回して取り付けてください。



右足を乗せる方の右用ペダル（R）は、正ネジ方向（時計方向）に回して取り付けてください。

確認

左ペダル 反時計回しに締める

右ペダル 時計回しに締める

乗る前の準備（3） 組立手順

警告

- ペダルのネジを傾げて締めない



ネジがつぶれる、破損してペダルが脱落してしまいます。

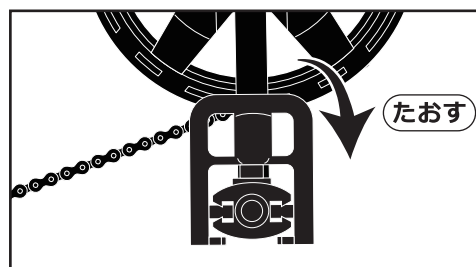
- ペダルの取り付けが左右間違いないか確認する



逆に取り付けようとすると、ネジが入らない、ネジ山がつぶれるなどにより取り付けができなくなります。

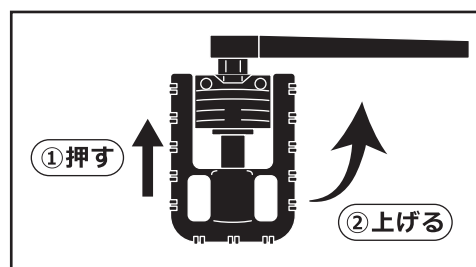
ペダルを開く

- ①ギアクランクを真下にして、ペダルの踏み面を手で倒してください。



※ペダルを閉じる場合

- ①ペダルの踏み面を手で車体側に押し、上げてください。



ハブキャップの取付け

付属部品：ハブキャップ×4

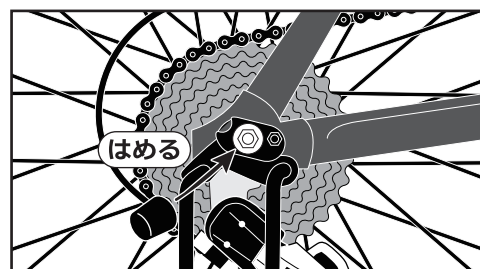


※車種により、キャップ形状が違う場合があります。

- ①車輪中心部のナットに黒色の付属のキャップを取り付けます。

外れにくいようにするため、取り付けがきついですが、難しい場合は成人の男性の方などをお願いをして取り付けてください。

前輪・後輪の左右中心にお取付けください。



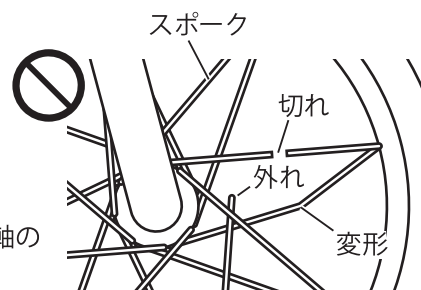
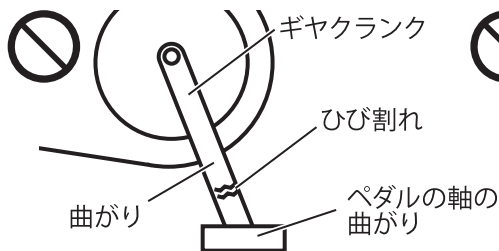
一例：後輪軸ナットにキャップをはめる。（同じ様に他の三箇所も取り付けてください）

乗る前の点検（１）

安全にご乗車いただくため、乗るまえにつぎの点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

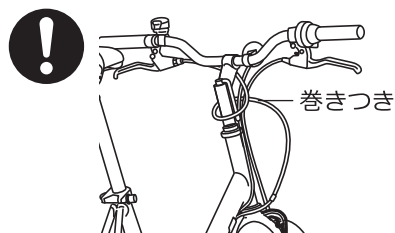
警告

●各部にガタやユルミおよび、変形・ひび割れ等があるときは乗らない



- ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- 前ホークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるようになってす。衝突や転倒など強い衝撃が加わった後は、前フォークに変形やひび割れなど異常がないか点検してください。
- スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換して下さい。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。
- ハンドルを締め付けてもガタ・ユルミがあるときは、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検をしてください。

●前車輪の方向およびブレーキワイヤが、ハンドルステムやフレームに巻きついていないかを確認する



ブレーキの効きすぎまたは、効かなくなり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

●乗るまえの点検は、必ず実施する

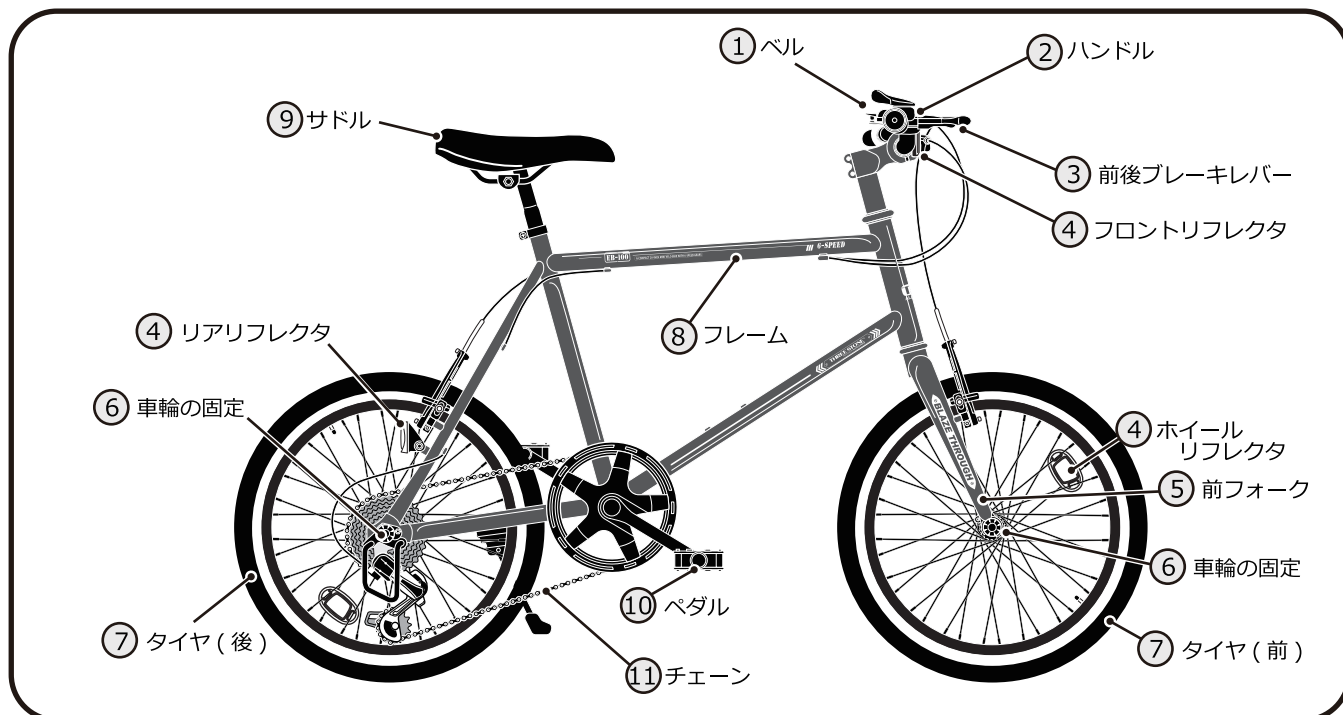
- 事故や転倒による怪我のおそれがあります。
- 前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。
- ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検してください。
- 前後車輪が、確実に固定されているか点検してください。
- 前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。

●点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは乗らない

- 事故や転倒による怪我のおそれがあります。
- 異常があったときは販売店にご相談ください。

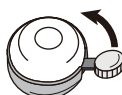
乗る前の点検（2）

安全に乗車していただくため、乗車前に下記の点検を実施する習慣を身につけましょう。



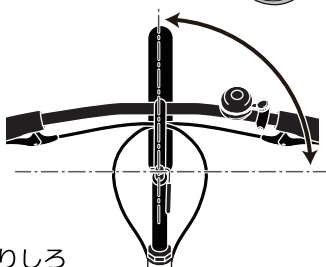
① ベルの鳴り具合

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検します。



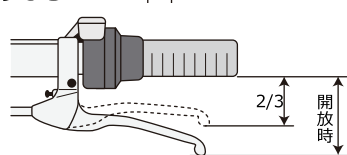
② ハンドルのがたつき

ハンドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検しましょう。またハンドルが前タイヤに対し直角（90°）に付いているか点検します。



③ 前・後ブレーキレバーの握りしろ

ブレーキレバーが解放時の約2/3の位置でブレーキが効きはじめることを点検します。



④ リフレクタの汚れ・損傷

汚れや損傷がないか点検します。汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。

⑤ 前フォークの変形・損傷

変形や損傷がないか点検します。変形・損傷している場合は乗車をせずに交換してください。

⑥ 前後車輪の固定状態

タイヤをゆすり、がたつきがないか点検します。

⑦ 前後タイヤの空気圧・摩耗・損傷

タイヤが摩耗していないか、タイヤにくぎなどがささっていないか点検します。空気圧が減少しているとアシスト走行距離に大きく影響します。

標準空気圧

タイヤ側面に記載

⑧ フレームの変形・損傷

変形や損傷がないか点検します。変形・損傷している場合は乗車をせずに交換してください。

⑨ サドルのがたつき

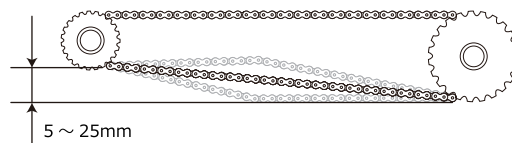
サドルを上下左右にゆすり、がたつきがないか点検します。

⑩ ペダルのがたつき

ペダルをゆすり、がたつきがないか点検します。

⑪ チェーンの張り具合

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mmあれば適正です。



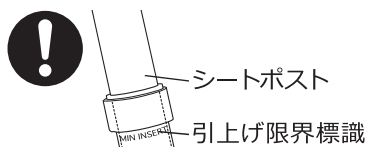
点検で異常があった場合や転倒して異常があった場合は、乗車せずお買い上げ販売店にご相談ください。

乗る前の調整（１）

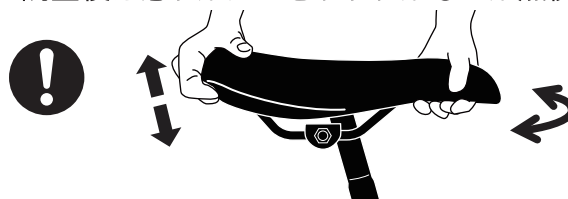
■サドルの調整

⚠ 警告

■ 引き上げ限界標識が隠れる領域で調整する



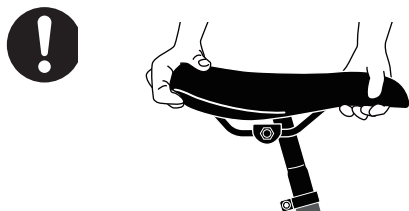
■ 調整後は必ずがたつきやずれがないか点検をする



シートポストが折れたり、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。

⚠ 注意

■ サドルを緩めるときは、サドルを支え持ちながら緩める



サドルが落下し、手や指をはさむおそれがあります。

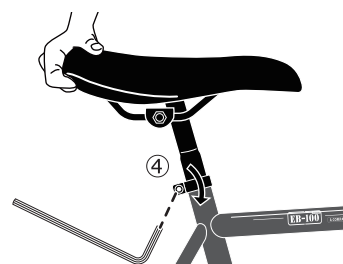
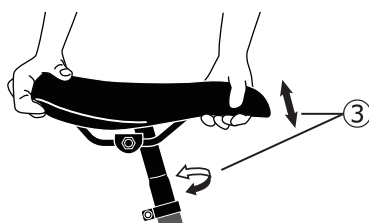
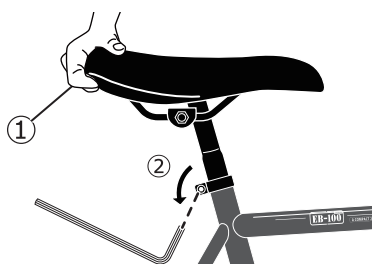
● 高さとの調整

① サドルを支え持つ。

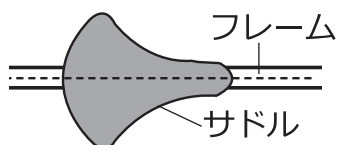
② サドル固定機器のボルトをゆるめる。

③ サドルの高さと向きを調整する。

④ サドル固定機器のボルトを締める。



● サドルの正しい方向と角度



フレームと平行に合わせる。 サドルの上面と地面を平行にする。



お願い

● 角度の調整は販売店にご相談ください。

乗る前の調整（２）

■ブレーキの調整（自転車整備店に依頼してください）

⚠ 警告

■ブレーキレバーの遊びが大きいまや、小さいままで走行しない



ブレーキが効かなくなったり、効き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがの原因になります。

●ブレーキが効かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ロックナットは確実に締め付ける



ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがの原因になります。

■音鳴りがしたり、ブレーキの効きが強すぎる場合は使用しない



転倒や衝突によるけがの原因になります。

●すぐに販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■走行直後は、ブレーキ部に手を触れない



ブレーキ部が高温になり、やけどの原因になります。

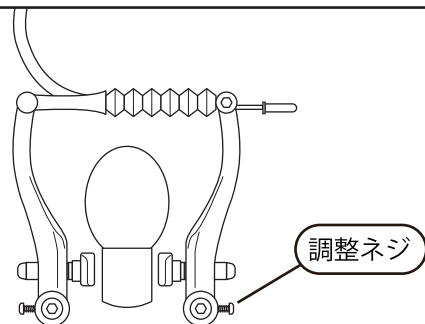
接触禁止

※下記はブレーキの調整ねじを使用した応急的な調整方法です。一般の方では調整が難しい部分が御座います。
そのため専門知識の無い方は、自転車整備店にご依頼ください。

●Vブレーキ（前後どちらかでVブレーキの場合）

ブレーキの左右片効き調整について

- ・当たっている側のブレーキの調整ネジをドライバーで締めます。
- ・バネの反発力の確認と動きを安定させるため、調整後にブレーキレバーを数回握って、ブレーキを動かしてみてください。
- ・動きが鈍い時は、当たっていない方の調整ネジをゆるめて調整をしてください。



乗る前の調整（3）

■ 変速機（ディレイラー）の調整

変速が正常に切り替わらない、乗っているとガラガラと異音がする、チェーンが外れてしまうなどの場合、変速機（ディレイラー）を調整していただけますようお願い申し上げます。

※下記は変速機の調整ねじを使用した応急的な調整方法です。一般の方では調整が難しい部分が御座います。
そのため専門知識の無い方は、自転車整備店にご依頼ください。

1. アウター調整ボルト

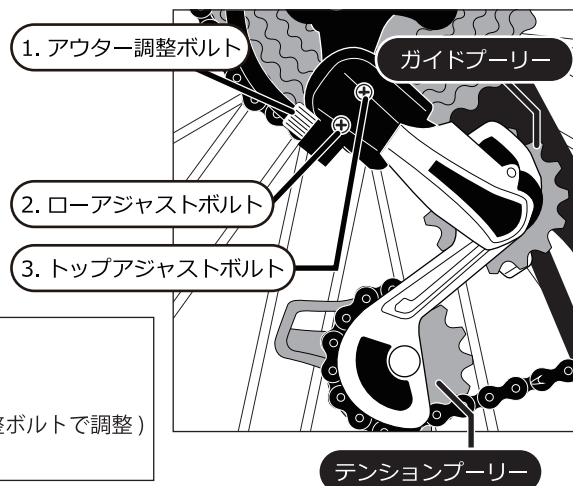
- 右回し（時計回し）6速ギア最小ギア）に入り易くなります。
- 左回し（反時計回し）1速ギア（最大ギア）に入り易くなります。

2. ローアジャストボルト（Lのネジ）

ゆるめる方向に回すと、1速ギアに入りやすくなります。

3. トップアジャストボルト（Hのネジ）

ゆるめる方向に回すと、6速ギアに入りやすくなります。



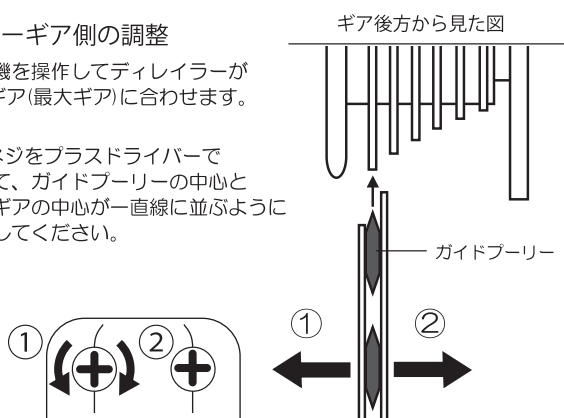
●変速機の調整（一例）

1. アウター調整ボルトで微調整
2. 6速にしてプーリーの垂直をあわせる（トップアジャストボルトで調整）
3. 5速にして空回しをし、異音が無いか確認。異音がする場合はアウター調整ボルトで調整
4. 1速にしてプーリーの垂直をあわせる（ローアジャストボルトで調整）

●ローギア側の調整

変速機を操作してディレイラーが1速ギア（最大ギア）に合わせます。

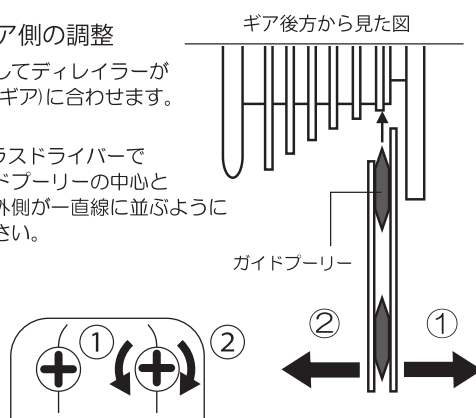
Lのネジをプラスドライバーで回して、ガイドプーリーの中心とローギアの中心が一直線に並ぶように調整してください。



●トップギア側の調整

変速機を操作してディレイラーが6速ギア（最小ギア）に合わせます。

Hのネジをプラスドライバーで回して、ガイドプーリーの中心とトップギアの外側が一直線に並ぶように調整してください。



調整の際は、1/4回転程まわしながら、少しずつ調整をおこなってください。

調整方法	大きいギアに入りにくい(2速→1速、3速→2速など)	→	ローアジャストボルトを反時計回しに回す
	小さいギアに入りにくい(5速→6速、4速→3速など)	→	トップアジャストボルトを反時計回しに回す
	ギアの外側(トップ側)にチェーンが落ちる、外れる	→	トップアジャストボルトを時計回しに回す
	ギアの内側(ロー側)にチェーンが落ちる、外れる	→	ローアジャストボルトを時計回しに回す
	各ギアでガラガラと音鳴りがする	→	アウター調整ボルトを右または左に回す

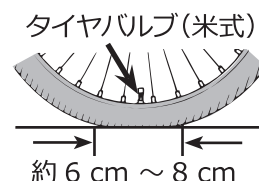
※調整ネジで調整しきれない場合はディレイラーをトップギアにして調整ボルトを締め込み、再度変速ワイヤーの張り直しをしてください。変速機の調整は経験に左右される事が多いので何度かやってみるのが良いです。

乗る前の調整（４）

■ 空気圧の調整（前後のタイヤ）

● 適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約 6 cm ～ 8 cm 程度が、適正です。
圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。
300 kPa ～ 450 kPa {3.0 kgf/cm² ～ 4.5 kgf/cm²} が適正です。
○標準空気圧は、タイヤの側面に記載されています。



ご注意

- 空気圧が少ないとパンクや、タイヤ、リムを損傷させる原因になります。

お知らせ

- 空気圧は自然に減ります。
- タイヤバルブの型式は、米式（バイク等と同じバルブ）です。

● 空気の入れ方

自転車用のポンプを使って空気を入れます。

■ タイヤについて

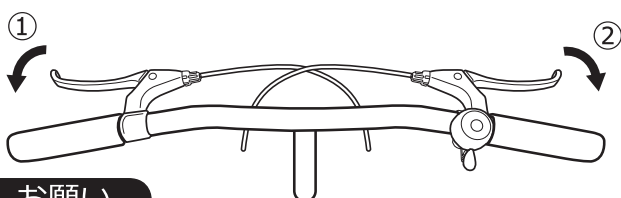
お願い

! お届け時は、タイヤとチューブの保護・傷み防止のため、空気が少なくなっている場合があります。
必ず適正な空気を入れてからお乗りください。

- ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- ガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐふき取ってください。
- 走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検してください。パンクやタイヤ・リムを損傷させる原因になります。
- タイヤの空気圧は 300kPa {3.0kgf/cm²} 未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。

■ ブレーキのかけかた

- ① 後ブレーキを先にかけてから
- ② 前ブレーキをかける。



お願い

- 急な坂道のときは、降りて押してください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がすぎないように走行してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

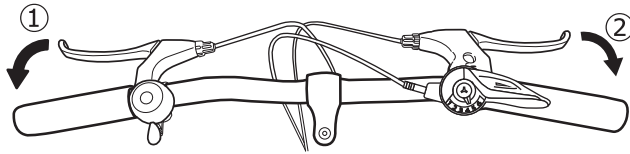
! 警告

- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

正しい取扱い方法（１）

■ブレーキのかけかた

- ① 後ブレーキを先にかけてから
- ② 前ブレーキをかける。



お願い

- 急な坂道のときは、降りて押してください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がすぎないように走行してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

警告

- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
- ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■ 変速のしかた

警告

- スピードをだしすぎない



標準常用速度 10 km/h ~ 15 km/h

衝突や転倒によるけがの原因になります。

- 漕ぐ力を抜いて、ペダルを空転気味に軽く回転させながら変速操作をする



間違った変速操作をすると事故によるけがの原因になります。

- 初めて変速機を使われる人は、よく練習してください。

- 次のような変速はしない



- ペダルを止めたままの変速
- 一気に 2 段以上の変速
- 停止しているときの変速
- ペダルを逆転させながらの変速
- ペダルを強く踏みこみながらの変速
- シフトグリップを無理に操作させる変速

事故によるけがの原因になります。

お願い

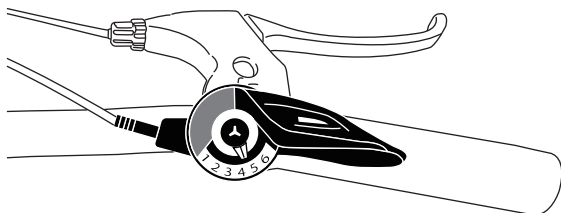
- 変速操作は、よく練習してください。
- スムーズに変速ができるか確認し、調子が悪いときはお近くの自転車整備店にご相談ください。

正しい取扱い方法（２）【変速調整：シフトレバータイプ】

●シフトレバー表示とギヤの位置

※商品によりシフトレバー形状が異なる場合があります。

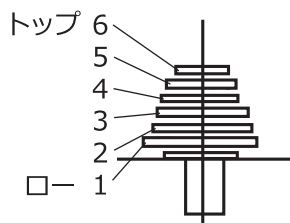
●サムグリップ（後変速機／６段）



ペダリングが重くなる
1→2→3→4→5→6

ペダリングが軽くなる
6→5→4→3→2→1

●後ギヤ（後変速機／６段）



ペダリングが重くなる

1→2→3→4→5→6

下り坂・追い風

上り坂・向い風

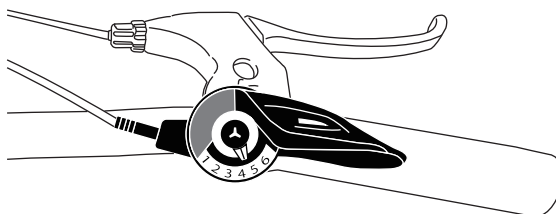
ペダリングが軽くなる

6→5→4→3→2→1

平地を走るとき



3 または 4 の位置にあわせる。

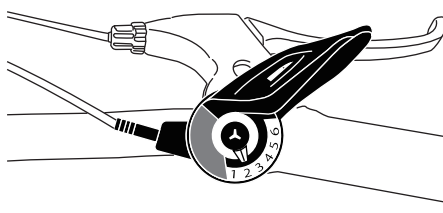


上り坂のとき



坂の手前で…

1 または 2 の位置にあわせる。



●急な坂道のとき

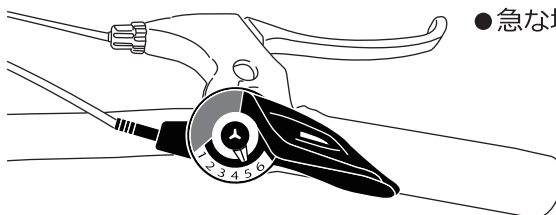
⇒降りて押す。

下り坂のとき



坂の手前で…

5 または 6 の位置にあわせる。



●急な坂道のとき

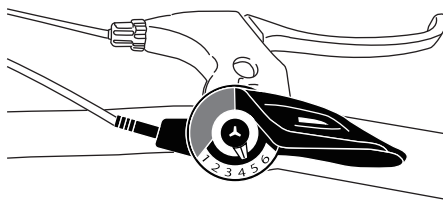
⇒降りて押す。

停止するとき



停止する手前で…

3 または 4 の位置にあわせる。



次の発進が楽になります。

●後ブレーキを先にかける。

●駐輪禁止の場所には駐輪しない。

●変速機は、坂や風の状態、体調等によって変速し、最適の位置を選んでください。

お手入れ／注油について（１）

お手入れ

- 日常のお手入れは、
 - 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
 - がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。
- 汚れがひどいとき
水洗いし乾燥させた後、各部に注油してください。
注油禁止場所には注油しないでください。
- 塗装部（フレーム体など）
乾いた布でよく磨き、自動車用のワックスをかけ、乾いた布でふき取ってください。
- めっき部（ハブなど）
乾いた布でよくふいたあと、「さび止め油」でふき、余分な油をふき取ってください。
- 樹脂部（ペダルなど）
乾いた布でほこりをとってください。
- 湿気の多い所や海岸沿いは、
さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。



お願い

- シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。
- サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、滑ります）

注油について

警告

- リムやブレーキブロック（ゴム部）には、油をつけない
ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。



お手入れ／注油について（2）

注油場所と注油禁止場所



このマークは、注油場所を示します。



このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

- 油の種類は、必ず自転車用油を使用してください。（食用油などは、硬化するおそれがあります）
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

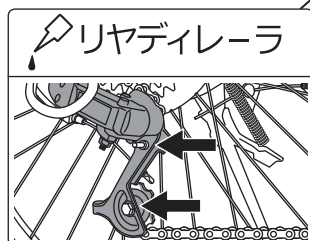


レバーの可動部に注油。
（ブレーキが効きにくくなるのを防ぎます）

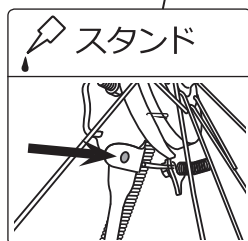
後ブレーキ

前ブレーキ
（ブレーキブロック）

タイヤ〈前・後〉
ついた油は、すぐふき取る。
（ひび割れなど老化を防ぎます）



可動部とプーリーに注油。



スタンドの内側の
カシメ部分に注油。
（ロック機能に支障を
きたすのを防ぎます）



クランクを回しながら注油
し、余分な油はふき取る。
（チェーンのさび防止と、
ほこりがつきやすくなる
のを防ぎます）

定期点検

定期点検

警告

- 定期点検は、必ず実施する

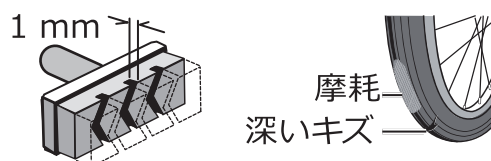


異常や故障の発見がおくれ事故の原因になります。

- 部品の交換は、次の基準で実施する



- ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても2年に1回は、交換する。
- タイヤは、接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換する。
- ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mmになる前に交換する。
- ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。



ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるけがのおそれがあります。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。

いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回(2ヵ月目)点検と、6ヵ月毎の定期点検の実施をお願いします。

● 初回(2ヵ月目)の点検と整備

お買い求め2ヵ月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。

必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくはそれと同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

● 2回目以降(6ヵ月毎)の点検と整備

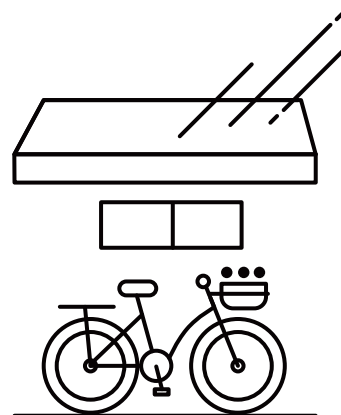
安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

■ 保管場所は、

雨がかかりにくい場所に保管してください。

雨がかかるところでは、市販の「サイクルカバー」のご使用をおすすめします。

※長期保管後、再使用される場合は、販売店で点検・調整のうえ、ご使用ください。



■ 廃棄するときは、

自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

※梱包ダンボール・梱包材につきましても、地域のルールに従って捨ててください。

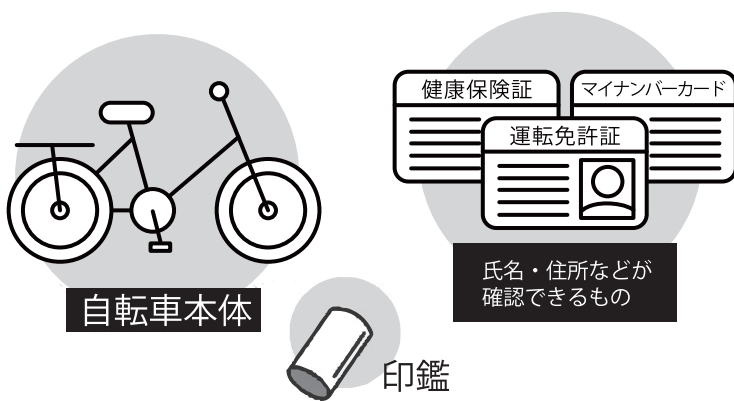
防犯登録について

防犯登録をご希望の方はお近くの「防犯登録加盟店」にて手続きができます。
(お住まいの近くの自転車販売店、ホームセンターなど)

自転車を利用するためには、法律「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律第12条第3項」により「自転車防犯登録」が義務付けられています。「自転車防犯登録」を行っていないと、盗難にあった際に盗難被害届けを出すことができませんということがありますので、早めに「自転車防犯登録」を行うことをお勧めします。

防犯登録を受ける際、必要となる物

販証明書

[illegible]

- ネットショップでのご購入の場合は、ご購入店舗にご連絡いただき「販売証明書」発行のご依頼をしてください。商品には「販売証明書」は付属していません。
- フレーム No. の刻印の位置は下記の車体番号の位置をご参照ください。
- メーカー、及び販売店ではフレーム No.(車体番号) の管理はしておりません。
- 必ずご自身で確認の上、大切に保管してください。

その他、防犯登録についてご不明な点がございましたら最寄の各都道府県の防犯登録協会自転車商協同組にお尋ねください。

■ **車体番号位置** ハンドルポスト下またはボトムケースどちらかに車体番号が刻印されています。

■ **車体番号** (刻印位置)
防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。



こんな時は・・・

次のような症状が出た場合は各項目を点検して見てください。

症 状	チェック項目	参考ページ
ブレーキのききが悪い。異音。 ブレーキパッドがリムに接触している。車輪の回転が重い。	ハンドル組立時にブレーキワイヤーが絡まった状態になっていない かご確認ください。 ブレーキを調整をしてみてください。	P.10 P.13 P.16
車輪からカタカタ音がする。	ブレーキワイヤーがスポークに当たっていないか確認してください。当たっていれば、ワイヤーを手で曲げて、当たらないように調整してください。	—
変速がうまく切り替わらない。 ギアから異音がする。	・ハンドル組立て時にブレーキワイヤーや変速機ワイヤーが絡まった状態になっていないか確認してください。 ・変速機を調整してみてください。	P.13 P.17
車体番号の記載位置がわからない。	ハンドルポスト下部の前面に刻印がされています。	P.9
開封時に黒いプラスチックの部品が割れている。	運送時破損防止の保護材ですので、本体にキズ等なければ破棄してください。	—
付属のキャップの取付場所がわからない。	ハブナットのキャップになりますので 車輪軸のナットにつけてください。	P.12
ライトが点かない。	電池の向きが正しいか確認して下さい。 不具合と思われる場合は、販売店にご連絡ください。保証範囲で交換いたします。	—
ワイヤーロック錠のカギがかからない。開錠しない。	ご使用初めは、固い場合が御座います。 手でカギを左右に揺らすなどしてダイヤルを回してください。	—

充電式

LEDライトについて

- 場合により、仕様・色などが異なる場合があります。
- サービス品のため、保証対象外となります。

【ご注意】本製品は防水仕様ですが、豪雨などで激しく水が当たる場合は、取外してご使用を控えてください。

パーツリスト

● LEDライト本体 (簡易防水仕様)



● 充電ケーブル(USB-Bタイプ)



1. 充電をする

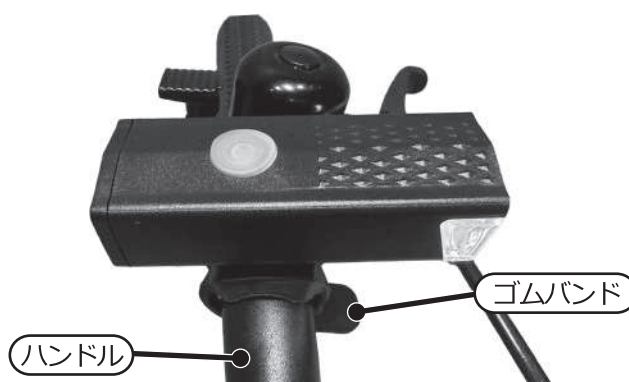
LEDライト本体後部にある充電口のゴムカバーを開けて、充電ケーブルのタイプBの端子側を差し込み、もう片側をUSBポートに差し込んで充電をしてください。

充電時間 満充電まで約3時間



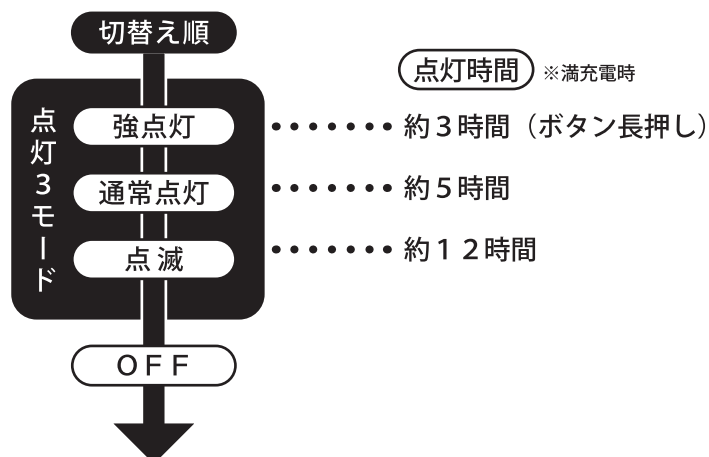
2. ハンドルへの取付け

ライト底面にあるゴムバンドを、ハンドルに巻きつけて固定してください。



3. 使い方

ライトの上部にあるモード切替えボタンを押すことで、点灯モードを切替える事が出来ます。



ワイヤーロック錠について

- 場合により、仕様・色などが異なる場合があります。
- サービス品のため、保証対象外となります。

● ワイヤーロック錠の取付けは、右記のパーツを使用します。

● ワイヤーロック錠本体

● 取付けパーツ



1. サドルポストへの取付け

取付けパーツのネジ2本を緩めてください。

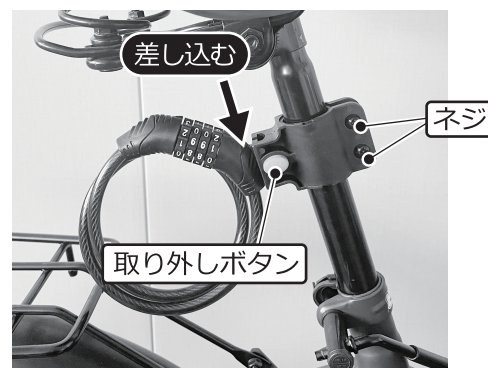
サドルを車体から外し、サドルポストの下から取付けパーツを差し込み、ネジを締めて固定してください。

【注意】取付けパーツは、ロック錠本体が上から差し込める向きで取付けてください。※赤い取り外しボタンが、右側後方にきます。

サドルを車体に固定します。

取付けパーツのロック錠取付け用の溝と、ロック錠の取付け部を合わせ、上からロック錠本体をスライドさせて取付けてください。

● ロック錠を外す場合は、赤い取外しボタンを押しながら、ロック錠を上からスライドさせて外してください。



2. 暗証番号の設定(変更)方法

① ダイヤルの数字を合せて、ロックを外してください。

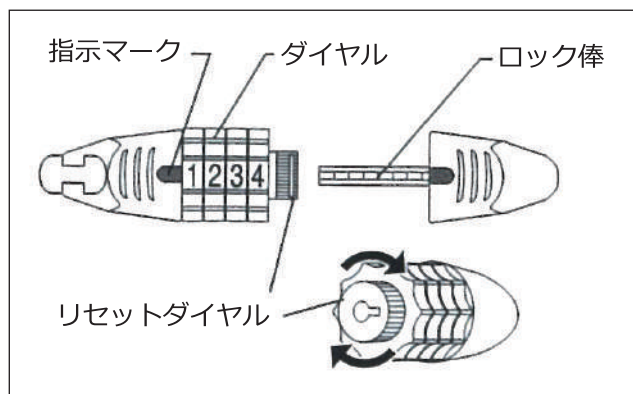
【初期設定番号は『0000』です】

② ダイヤル横のリセットダイヤルを矢印の方向(時計回り)にカチッと音がするまで(約90度)回してください。

③ ダイヤルを設定したい数字に合わせてください。

【数字を忘れないよう、必ずメモを取ってください】

④ ダイヤルを合わせたあと、リセットダイヤルを反時計回りに回して、元に戻してください。



※※※ 注意事項 ※※※

- 必ずダイヤルが指示マークに対して、一直線に揃っていることを確認して設定してください。ズレたまま設定すると、意図しない番号に設定されてしまう可能性があります。
- 暗証番号変更後は、ご使用前に暗証番号が正しく変更されているか必ず確認してください。
- 暗証番号は何度でも変更可能ですが、番号を忘れた場合は解除できなくなりますので、必ずメモを取るようになしてください。
- ダイヤルの動きが悪くなった場合は、潤滑油を挿してください。
- 雨や湿気により、金属部にサビが発生する場合があります。

購入情報メモ



故障や万が一の盗難などにあった場合、必要な情報になりますので、ご購入後は必ず記載してください。

■ご注文情報

項 目	内 容
ご購入店舗	
ご購入年月日	年 月 日
ご注文様お名前	
ご利用者様お名前	
ご注文番号	

■自転車の情報

項 目	内 容
製品名	
製品型番	
カラー	
車体番号 ※重要な情報です	

■メンテナンス履歴

年 月 日	内 容
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	

AIJYU
CYCLE

修理・取扱いなどは、お買い上げの販売店にてご相談頂けますよう、お願い致します。

AIJYU *CYCLE*

株式会社アイジュ